



活力ある秋田 Vol.44

秋田の財産、人にあり！ ～秋田マエストロ構想～

秋田市観光クチコミ大使
(株)うぶすな 代表取締役 吉井 靖氏

2010年5月に、秋田市観光アドバイザーに任命され、毎月の秋田通いが始まり、二年半の歳月が流れました。アドバイザーなので、月一回市役所で「アドバイス」するのが仕事のはずでした…何故、「はずでした…」と表現するかというと、当初予定になかった「緊急雇用対策事業」を受託することとなり、営業所設立に向けて、市内で面接をします。面接をしてみて驚いたこと。

「市内に若者の仕事がない！」を実感します。旧帝国大学の外国語学部を出た24歳の男性は言いました。「ハローワークに行っても、福祉や介護の仕事しかありません」。

これは、いかん！若者が故郷に戻り、働ける新たな産業の創造に繋げよう！と、自他ともに認めるお人よしの私は、秋田の事業者様が取り組んでいない、新たなビジネスモデルへの挑戦にシフトし、スマートフォンによる観光ガイド・医療観光による中国テレビ局招聘・駅周辺の情報発信信仕組み創り等を手掛け、月一回のはずが、気が付けば「月の半分秋田です」になってしまいました。

秋田の方は、「秋田には、なんもねえ」とおっしゃる方が多いようです。何も無いのではなく、気づいてないだけなんです。この2年間観光資源の洗い出しを徹底的にやりました。色々な素材があふれていますが、そこに住んでいらっしゃる方々がその魅力に気づかない限り、その地域自体を好きにはなりません。自分の地域を好きにならないと若者は故郷に戻りません。故郷に「気付き」を創る事は、観光の側面からも大切ですが、何よりもそこに住む人々が輝き、若者たちがいずれは故郷をめざし働き、また、起業を通じて地域経済への貢献に繋がればと願っています。私の様な「よそもの」から見ると、秋田市は宝の山であると感じます。

その中でも、秋田市の財産は、「人」だと私は考えています。

穏やかで、優しく、面倒見のいい「お人よし」がたくさんいらっしゃいます。



旅人が、「その土地にもう一度行きたい」と願う理由は、宿でも、酒でも、料理でもなく、「また会いたいと願う、あの人がいる」からが私の持論です。

よって、秋田市の「人」という資源に照準を合わせ、秋田に生まれ、育ち、秋田を誰よりも愛し、秋田の持つモノ・コトを伝えて行こうとする「匠」な秋田人をインデックス化し、「人」を入口に、秋田市の魅力を伝え、「また、秋田に来たくなる理由」を創らせることが必要と考え、勝手に「秋田マエストロ構想」と名付けて必要性を伝え、「観光における人の育成」を訴え続ける日々が続いています。

また、秋田商工会議所より秋田市観光クチコミ大使の委嘱を受けました。身近な方々へのクチコミでも秋田市のPRに努めていこうと思っています。

■略歴

東洋大学法学部卒業。放送作家、イベントプロデューサーを経て、株式会社うぶすな設立。日本初ネットライブ中継イベント、小泉内閣タウンミーティングインターネット中継、佐渡・お笑い島計画等を手がける。昨年度うぶすな社が制作したwebサイトは、ウェブデザインアワード・グランプリ始め総務省他4つの表彰を受ける。

内閣府地域活性化伝道師、総務省地域人材ネットアドバイザー、秋田市観光アドバイザー、三種町観光アドバイザーなどを歴任。